

令和7年度 真幸中学校 学校評価書

評価基準(数値) 4よくあてはまる(8割以上) 3だいたいあてはまる(5～8割未満) 2あまりあてはまらない(2～5割未満) 1まったくあてはまらない(2割未満)
 評価基準(記号) A(期待以上)3.5以上 B(ほぼ期待通り)2.5以上 C(期待を下回る)1.5以上 D(改善を要する)1.5未満

項目	教育目標達成のための具体的取組		生徒	保護者	教師	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント
未来につながる学力向上	「ひなたの学び」を意識した授業改善と探究的な授業実践	えびの学における探究活動の推進と「主体的・対話的で深い学び」の実践	3.3	3.2	3.1	教師が「ひなたの学び」(ひとりひとりが問いをもち、なかまとなって学び合い、たかめよう深く考える力)を意識して、授業展開を図ることができている。また全学年で、えびの学の授業公開を実施した。今後は、生徒にも「ひなたの学び」を意識させ、学力向上へとつなげていきたい。	B	B	○ 生徒自身が「目的意識」や「問題意識」を持って取り組むことが、学力向上につながると思う。 ○ キャリア教育は、己を知る上で、有効な手段となる。同時に「進路選択」の鍵にもなると思う。 ○ タブレットパソコン学習のメリットは多いと思いますが、デメリットはないのでしょうか。
	えびの学を中心としたキャリア教育の充実	キャリア教育支援センターや地域人材・資源の活用	3.1	3.2	3.2	総合的な学習の時間の年間計画に沿って、えびの学を中心とした郷土学習やえびのを起点とした将来に向けたキャリア教育を展開してきた。今後も引き続き外部人材を活用し、生徒の将来の職業観を育成していきたい。			
	「個別最適な学び」を意識した基礎・基本の定着	TPCの活用と各種テストの分析・活用	3.1	3.1	2.6	プリント等による確認テストなどで生徒個々の基礎・基本の定着を図ることができた。今後は、タブレットパソコンの学校内外での効果的な活用を図りたい。			
様々な教育活動を通しての心の教育	一人一人を生かし、達成感や成功体験をもたせる学校活動	すべての教育活動における発達指示的生徒指導の推進	3.3	3.2	2.9	学校行事や日々の生徒の活動をもとに、生徒の主体的な活動を促すことで、達成感や成功体験を味わわせてきた。今後も一人でも多くの生徒が主体的に活動できるよう、時と場に応じて生徒に任せられる場面を増やしていきたい。	B	B	○ 物質的豊かさに比べ、「心の豊かさ」が軽視されがちな社会である。自己中心的な生き方について問題意識を持ち、他者を思いやる「心の醸成」をしてほしい。
	居心地のよい学校づくり	多面的な生徒理解と組織的な教育相談等の推進	3.4	3.0	3.1	年間計画に沿った教育相談の実施や、生徒個々の悩みに対応することで、安心して過ごせる学校づくりに努めてきた。また毎週1回生徒理解のための会議を行うことで、組織的な対応を行ってきた。今後も学年組織の連携をもとに、組織的に対応していきたい。			
	自他を尊重し、自律心を育む教育活動	道徳の授業を中心とする心の教育の推進	3.4	3.0	2.9	毎月1回のいじめアンケートや、道徳科の指導、日常生活を通して、他を思いやる心や自己肯定感の大切さについて、考える機会をもたせた。今後も指導を継続していきたい。			
命を守る意識と健康教育	命の大切さや人権意識を高める健康教育	家庭と連携したSNS等のネットトラブル防止に向けた取組の推進	3.7	3.0	3.2	人権推進担当教員を中心として、情報モラル教育やSNSの使い方などについて、年間計画にしたがって、実施してきた。今後も生徒のいのちの大切さや人権意識を高めるような取組を継続して実施したい。	B	B	○ ネット社会は、生活上の「利便性」は評価できるが、他方の人権やプライバシーの侵害など、トラブルも続出し、社会問題化している。教職員の「共通認識」の下、教育活動全般を通して対処してほしい。 ○ 給食は毎日完食されている様ですが、家庭での食事はしっかり取れているのでしょうか。聞いた話ですが、朝、菓子パンを食べて学校に行く生徒もいるそうです。真幸中学校の生徒ではないですか。
	防災教育や交通安全規則の遵守等を通しての命を守る危機管理能力の向上	避難訓練等危機管理に関する行事や活動の工夫、推進	3.6	3.2	3.0	登下校時における生徒の怪我は、今年度は発生していない。また、通学路危険箇所点検を通して、生徒には具体的に安全について意識づけをさせることができた。引き続き、自分の命は自分で守るような意識付けを続けていきたい。また、荒天時における登下校の対応については、今後も柔軟に対応していきたい。			
	自らの食や健康を管理する意識と、よりよく改善する能力の向上	日常における健康管理への意識化をはかる手立てと家庭との連携	3.1	3.2	3.0	給食は概ね毎日完食されている。今後も、今の生徒の健康状態のみではなく、将来に向けた健康について、意識させていきたい。また保健だより等を通して、家庭とも連携を深めていきたい。			
服務規律と人材育成	職員同士が互いに尊重し、サポートし合える、風通しのよい職員集団の醸成	組織的な取組の徹底	/	/	3.2	職員相互の得手・不得手をお互いにカバーし、職員個々の能力が発揮しやすいよう、学年部や分掌部を中心に組織的な取組を行った。今後も、経験年数や年齢等に関わらず、お互いの考えを尊重し、相談しやすい職場づくりをめざしていきたい。	B	B	○ 公務に携わる人達の不祥事が多発し「モラル」の低下が指摘されている。教育現場でも「多忙化」等により、好ましくない職場イメージが定着しつつある。教育に「自信と誇り」を持ってほしい。
	教育公務員としての意識の高揚と、法令遵守の徹底	コンプライアンス推進プログラムの遵守	/	/	3.4	年間4回の職員研修や、週初めの朝礼で服務の規律を呼びかけることで、コンプライアンス意識を高めるとともに、校内ルールを見直し、徹底を図ることができた。今後も、法令遵守をもとに全職員へ行動を促していきたい。			
	新しい研修制度の活用とOJTの推進、職員のキャリアアップの推進	学び続ける教師集団	/	/	2.8	校外研修やオンライン・オンデマンド研修の受講推奨により、一人一人の資質向上やキャリアアップを図った。またPlant(全国教員研修プラットフォーム)を活用して、受講履歴を確認し、一人一人の振り返りを行った。今後も、研修を深め、若手、中堅、ベテランのそれぞれが得意とする職能を共有し、組織力を高めていきたい。			